

主な感染症と登園停止期間

保存版



保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。登園に際しては、以下の配慮をお願いします。

- ①園内での感染症の集団発生や流行につながらないこと
- ②子どもの健康(身体)状態が保育園での集団生活に適応できる状態に回復していること
- ③登園停止の日数の数え方は、発熱・解熱等その現象がみられた日は含めず、その翌日を1日と数えること
(例：インフルエンザで月曜日に解熱した場合、火曜～木曜日の3日間を経過した金曜日以降が登園可能となります)

《登園に際しては医師の指示を受けて下さい》

厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン(R5・5月)」より

病名	潜伏期間	主要症状	感染しやすい期間	登園のめやす
インフルエンザ	1~4日	突然の高熱・全身倦怠感・頭痛・筋肉痛 肺炎・脳炎・脳症に注意	症状がある期間(発症前24時間から後3日間が最も感染力が強い)	発熱後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過してから
新型コロナウイルス	5~14日	発熱・呼吸器症状・頭痛・倦怠感・消化器症状・鼻汁・味覚嗅覚以上などの症状が見られる	発症後3日間はウイルスの排出量が非常に多く特に発症後5日間が他人に感染させるリスクが高い	発症日を0日として5日間、かつ症状が軽快した後1日を経過すること
麻疹(はしか)	8~13日	高熱・咳・結膜充血・コプリック斑・発しん 肺炎・脳炎・中耳炎に注意	発症1日前から発疹出現後の5日後まで	解熱後4日を経過してから
風しん	14~23日	発熱・発しん・リンパ節の腫れ(耳、頰) ※妊娠初期は胎児に影響あるので注意	発疹出現の数日前から後5日間くらい	発しんが消失してから
水痘(みずぼうそう) ★帯状疱疹(ヘルペス)	10~21日 ★不定	発しん(体幹→全身)・発熱 発しんはかゆみが強い	発疹出現2日前から痂皮(かさぶた)形成まで ★帯状疱疹は水疱を形成している間	すべての発疹が痂皮(かさぶた)化してから
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	12~25日	発熱、片側ないし両側の唾液腺(耳下腺、顎下腺)の痛みを伴う腫れ 髄膜炎・急性脳炎に注意	耳下腺腫脹前7日前から腫脹後9日まで	耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になってから
結核	不定	発熱・咳・食欲不振・不機嫌・疲れやすい等の症状が続く	喀痰の塗抹検査が陽性の間	医師により、感染の恐れがなくなったと認められるまで
咽頭結膜熱(プール熱)	2~14日	発熱、のどの発赤・痛み、眼の充血・眼の痛み・目やに、涙が多くなる	発熱・充血など症状が出現した最初の数日間	主な症状が消失後、2日経過してから
流行性角結膜炎(はやり目)	5~12日	流涙・眼の充血・目やに、まぶたの腫れ 一方の眼から他方へもううつるので注意	発症後2週間	医師において感染の恐れがないと認められてから
百日咳	7~10日	感冒様症状から、咳が強くなり、特有な咳発作になり、連発し、夜間に悪化する	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌薬による治療を終了してから
腸管出血性大腸菌感染症(O157,O26,O111)	3~4日	激しい腹痛、頻回の水様便・血便、軽度の発熱	便中に菌を排泄している間	症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	1日	急性結膜炎で結膜出血が特徴 感染力の強さと潜伏期間の短さが特徴	ウイルス排出は呼吸器から1~2週間、便からは数週間~数ヶ月	医師において感染の恐れがないと認められてから
溶連菌感染症	2~5日	突然の発熱、咽頭痛、嘔吐、痒みのある発しん リュウマチ熱や腎炎の合併に注意	抗菌薬内服後24時間が経過するまで	抗菌薬内服後24時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	14~21日	咳、発熱、頭痛などがゆっくりと進行し、咳は徐々に激しくなる	症状発現時がピークでその後4~6週間続く	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	3~6日	口腔内と手掌・足底・足背に水疱性の発しん、軽度の発熱	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	解熱後1日以上経過し、普段の食事がとれること
伝染性紅斑(りんご病)	10~20日	軽い風邪症状の後、頬が赤くなったり、手足に網目状の紅斑が出現	かぜ症状発現から顔に発しんが出現するまで	発しんが出現した頃にはすでに感染力は消失しているため、全身状態が良いこと
感染性胃腸炎(ノロ・ロタ・アデノウイルスなど)	加：12~48時間 少：1~3日	嘔気・嘔吐、下痢(乳幼児は黄色より白色であることが多い)、発熱 脱水、けいれん、脳症に注意	症状がある時期が主なウイルス排泄期間	嘔吐・下痢などの症状が治まり、普通の食事がとれること
ヘルパンギーナ	3~6日	突然の高熱、のどの痛み、のどの水疱疹や潰瘍	唾液へのウイルス排泄は1週間未満、便中への排泄は数週間持続する	解熱後1日以上経過し、普段の食事がとれること
RSウイルス	4~6日	発熱、鼻汁、咳嗽・喘鳴・呼吸困難	通常3~8日間(乳児では3~4週間)	重篤な呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
突発性発疹	約10日	3日間程度の発熱、解熱後に全身に発疹下痢を伴うことがある	感染力は弱い、発熱中は感染力がある	解熱後1日以上経過し、全身状態が良いこと

《受診し治療を受けてください》

※登園許可証は不要です

病名	潜伏期間	主要症状	感染しやすい期間	登園のめやす
伝染性膿痂疹(とびひ)	2~10日	顔や手足に米粒大の発赤・水疱 浸出液から皮膚に次々とびひする	効果的治療開始後24時間まで	皮膚が乾燥しているか、浸潤部位が覆える程度のものであること
伝染性軟属腫(水いぼ)	2~7週	皮膚に1~3mm位のつやのある半球状丘疹(イボ)が、数個~数十個集団でみられることが多い	不明	掻きこわし傷から浸出液が出ているときは被覆すること
頭じらみ症	10~14日	小児のほとんどが無症状であるが、吸血部分に痒みを訴えることがある 髪に白い虫卵が見られる	産卵から最初の若虫がふ化するまでの期間は10~14日である	駆除を開始していること